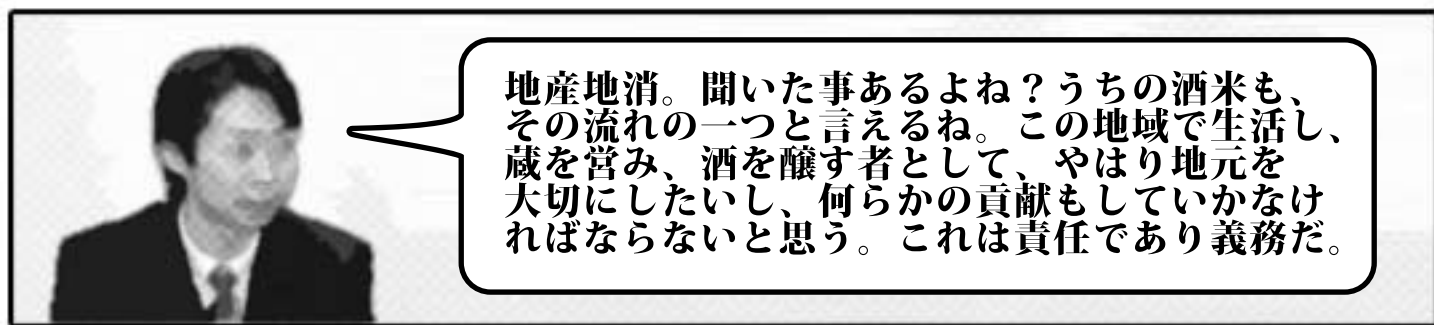


社内会議当日...

普段ならば蔵元から事前に検討議題の投げかけがあり、それぞれに考えをまとめて発言し合うのだが...

皆に何となく不安感が漂う。

ようやく蔵元が現れ、口を開く。。。



皆の緊張感が高まる。尾嶋の唾を飲み込む音が聞こえる程に張り詰めた空気。

その空気を察知してか、奥村が声をかける。「お茶でも入れますか？」

しかし、蔵元は遮る様に、続けた。

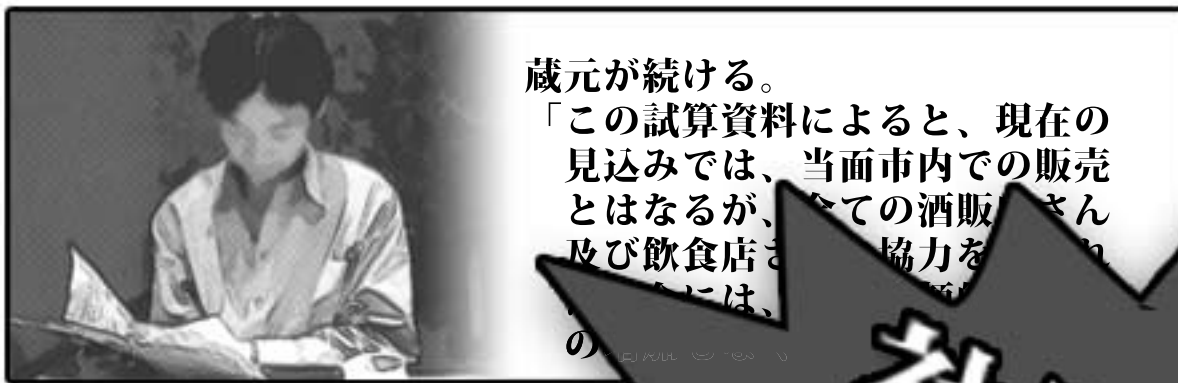


能美市の特産品
加賀丸いもを
使って焼酎を造る！



製造責任者の二見。
驚愕の色を隠せず…

口を押さえたまま、
固まっている。。。



蔵元が続ける。
「この試算資料によると、現在の
見込みでは、当面市内での販売
とはなるが、全ての酒販さん
及び飲食店まで協力を得る
には、
の



社長！
待って下さい！



社長の想いは理解できます。しかし、今でも製造は手一杯です！社長ご自身も仕込みの時期はまともに睡眠も取れていないじゃないですか！

二見が蔵元に本心をぶつける！

確かに二人きりで日本酒を仕込む事は想像以上に過酷なものなのだ。その上、焼酎まで仕込むとなると...



.....

蔵元あえて語らず



奥村貴子がゆったりとした口調で語り始める。

.....面白そうですね。確かに二見君の言う通り、大変になるかも知れないけど、社長ご自身も大変になる事を覚悟されてるんだから。



押し黙る尾嶋

.....



たかちゃん！俺だって地元に貢献したい気持ちを持ってるよ。ただ現実的にかんりの...

ん？私も業務が増えるし、ちょっと大変かもしれないけど、私にできることがあれば手伝うわよ？

紅一点の奥村。。。彼女のこの明るくて柔らかな性格に、我が蔵は何度となく助けられてきた。

皆に疲れが溜ったり、気持ちが沈みかけた時、彼女の笑顔と言葉が心を温めてくれる。